

木田市長の

どしんと コミュニケーション



出でよ すばらしきリーダー

Vol.95

先日、国交省のある課長の講演を聞く機会がありました。その資料の中に、30年後の日本の人口構成を予想したものがありません。老人の人口が増加する一方、労働人口や子どもの数が大きく減少してゆくというものです。世界にも例を見ないほどの少子高齢化の予想です。課長の講演内容は、「このような状況であるので、日本の将来のまちづくりに、それと合ったような形にしてゆかねばならない」というものでした。しかし私はその主題から少し離れた質問を、つい、してみました。「私は国の借金が増えつづけていることと、生まれる子ども数が減りつづけていることを心配しています。30年後の老人の数についてはどうに

も仕方のないことでしょうか、30年後の子どもの数については現状から単純に予想しただけの数字で良いのでしょうか。いったい国の内部では誰が責任をもって、この日本の大問題に取り組んでいくのでしょうか」という内容の質問です。国の一千兆円を超える借金については、貸しているのはほとんどが日本人だから心配ないという意見が、今まで主流でありました。しかし、これからは借金が雪だるま式に増えますから、あつという間に日本人の貯蓄高を超えてゆくことでしょうか。少子化についても、子どもが減ってゆけば、今までのようには家もいらぬ、土地もいらぬ、学校もいらぬというように全ての経済活動に悪影響が現れてく

るのではないかと心配です。ちょうどこの頃、百田直樹(ひやくたなおき)という作家が書いた「永遠の0」という小説を読んできました。その内容を紹介しますと、第二次大戦のゼロ戦と呼ばれた優秀な戦闘機の活躍を通して、尊い命を無残にも散らした若者たちと、悲しく見送った肉親たちに対し、責任あるはずの国の上層部や軍部の高級将校たちの無責任さを浮き彫りにした作品でありました。多数の国民の想いは全く生かされず、ほんのひとにぎりの軍部のひとたちの間違った判断のもとに、多くの若者たちがほとんど効果のなかった特攻攻撃に参加し、帰らぬ人となってしまいました。「国のために命をささげよ」と言っていた軍上層部の人達の勇気のなさによって、勝てる戦いでさえもチャンスを見失ったということが書かれています。

山下憲一の
東京奮闘記! Vol.8

市では、昨年度から離島振興や首都圏での観光、企業誘致のPRを行うため、東京へ駐在員を派遣しています。

企画財政課企画経営室 ☎(25)1101

三重の認知度上昇中

東京でも寒さが日ごとに増していますが、今年は遷宮イヤーということもあり、三重県への関心度も増しているように感じます。

10月14日には、「鳥羽のあまちゃん100人上京!食と祝の祭典」が六本木ヒルズで開催されました。当日は約7,000人が来場し、テレビ・新聞などでも報道され、首都圏で鳥羽の認知度を大きく高めたイベントとなりました。

私もスタッフとして、東京駅から六本木まで海女さんたちを誘導したのですが、その道中でも海女さんたちは注目の的でした。一般のかたにカメラや携帯を向けられても、

まるでベテランのタレントのような立ち居振る舞いで写真撮影に応じ、「鳥羽へ来てえな」とPRする姿に鳥羽の女性のパワーを感じました。

9月末には東京都中央区日本橋に三重県の首都圏営業拠点「三重テラス」がオープンしました。

2階にはイベントスペースが設けられており、県内各市町が各種イベントを開催しています。また、1階には、物販コーナーとレストランが併設され、レストランでは県産の食材を使った料理が提供されています。物販コーナーには鳥羽の事業者の商品も何点が販売されているほか、地元でしか購入できない商品も多く販売されていますので、首都圏のお知り合いに紹介してあげてください。また、東京へお越しの際には、一度足を運んでみてください。



三重テラス